

第1回 魚津市総合計画審議会 議事概要

【日 時】 令和6年9月20日（金） 午後1時30分から午後2時35分

【場 所】 魚津市役所2階 第1会議室

【出席者】 委 員 19名 秋本委員、朝野委員、伊藤委員、大澤千委員、大澤ま委員、
大坪委員、柿本委員、河村委員、慶伊委員、佐々木委員、
高田委員、高野委員、中野委員、中村委員、濱元委員、
前澤委員、山本委員、横田委員、若林委員
(欠席：島津委員、平野委員)

市当局 5名 村椿市長、宮野企画部長、浦田企画部次長、
(事務局) 徳道企画係長、山内主任

13：30 開会

事務局 定刻となったため、「第1回魚津市総合計画審議会」を開会する。審議会委員の皆様におかれては、委員を引き受けいただき、またご多忙の中お集まりいただき、感謝申し上げます。開会にあたって、魚津市長 村椿 晃よりご挨拶申し上げます。

市 長 皆様こんにちは。委員の皆様には、大変お忙しい中、総合計画の審議会委員を引き受けいただき、また、お集まりいただき感謝申し上げます。現在の魚津市総合計画は令和3年からスタートし、10年間のスパンでの総合計画がある。この計画10年を半分にし、前期と後期があるが、これから皆様にご協議いただくのは後期の分である。令和8年からスタートし、12年までの5年間の部分について、魚津市が目指す取組、地域社会をどう描いていくかのご意見をいただく場になる。前半の5年間は財政の話や、高齢化や少子化が進む中で地域コミュニティをどう維持していくかが大きなテーマであった。それは現在も続いている。現在コミュニティセンター化で、支え合う地域社会をどのように進めていくかの取組を進めているが、今後ますます進んでいくと思う。人口減少が自然に進むことは避けられないが、人が減少していくなかでも、地域活動や高齢者の生活支援、子どもの地域での学びなど、持続的な取組をどう作っていくかは大きなテーマである。同時に、元旦に地震もあったが、人が減っていくと災害から立ち上がることもますます厳しくなる。災害にも強い地域をどう作っていくかも大事なテーマになることと思う。

また、このまちに集まる高校生、学生などの若者に、地域として、どうコミットしていくか。彼らが地域に関われる環境をどうやって我々が作っていけるかも、大きな要素と思う。論点は色々あるが、基本的には持続的な魚津をどうつくっていくか、真剣に議論し、後期計画に盛り込んでいければと思う。我々行政は人口減少などを見据えていかなければならないが、その先に何を指すかを示していかなければならない。この総合計画がそうした役割を持っている。現実をみながら、目指すべきところ、やっていかなければならないことを議論し、良い計画にしていきたい。約2年間かけてご審議いただき、取り組んでいければと思う。この思いをお伝えし挨拶に代えさせていただく。どうぞよろしくお願いする。

事務局 本審議会委員への就任にあたり、皆様のお手元には既に委嘱状をお配りさせていただいている。時間の都合もあり、このような形とさせていただいた。ご了承願いたい。委嘱状に記載のとおり、委員の任期は本日9月20日から令和8年3月31日までとなっている。長期間となるが、よろしくお願いします。本日まで出席の委員の皆様をご紹介させていただく。なお、ご紹介はお手元の名簿のとおり、お名前の五十音順で読み上げさせていただく。

(委員紹介、市側出席者の紹介)

次第にしたがい、会長選出を行う。

魚津市総合計画審議会条例第4条第1項の規定により、会長は委員の中から互選によって定めることとされている。どなたかご推薦等あればご発言をお願いします。

(特に発言なし)

ないようであれば事務局案として、北陸職業能力開発大学校校長 前澤宏一委員に会長をお願いしたいと思うが、いかがか。

(拍手あり)

それでは前澤委員は会長席へ移動をお願いします。

それでは前澤会長からご挨拶をいただきたい。

会長 北陸職業能力開発大学校校長 前澤である。本大学校は、ご存知の方も多いと思うが、厚生労働省がものづくり人材の育成のために全国に設立した大学のひとつ。地域への貢献を大きな使命としている。卒業生の多くは地元企業に就職していくということで、地元とのつながりも大きい。就職は良いが、最近が高齢化、少子化の影響を受けて志願者の確保では苦勞している。そのため、こういった市の計画には注目している。是非 Win-Win の関係が築けたらと思う。よろしくお願いします。私自身はこの4月に着任したばかり。それまでは富山大学の工学部で半導体の研究をしていた。こういった場での会長、座長は経験が少ない。色々至らぬ点があるかと思うが、どうぞよろしくお願いします。

事務局 次第7の第5次魚津市総合計画、第12次基本計画案の諮問を行う。本審議会は魚津市総合計画に関して、魚津市長の諮問に応じて必要な調査、審議をするために設置されているものであり、本日の第1回目の審議会において市長から審議会の会長へ諮問を行わせていただく。市長は会長席の方へお願いします。

(市長より諮問文を読み上げ、清水会長に手渡し)

事務局 それではここからの会議の進行は会長をお願いします。どうぞよろしくお願いします。

会 長 では次第に従って進める。次第8の議題に入る。(1)第5次魚津市総合計画第12次基本計画策定方針について、事務局より説明をお願いします。

事務局 (説明)

第5次魚津市総合計画第12次基本計画策定方針について

会 長 只今の説明についてご質問やご意見をいただきたい。何かご質問等ある方はいらっしゃるか。

私からお聞きしたい。団体アンケートやヒアリングと書かれているが、どのような団体を想定されているか。この言葉だけではまだよくわからない。

事務局 例えば、最近は外国人人材の話が話題に上がることが多い。外国人へのアンケート調査は難しいところがあるが、外国人が多く働いている企業とか、市民意識調査では難しい若い世代、学生など、魚津市民ではない方も含まれるが、そういった対象への調査を考えている。市内の企業や関係団体を考えている。その他子育て世代等。どういったところに入って行ってヒアリング調査するかは検討中だが、対象を絞った調査を行いたいと考えている。

会 長 今のお話では魚津市民ではない方も含めてお話を聞くということで承知した。他にどなたかご意見あるか。

ではもう一点お聞きしたい。アンケートの回収率はどの程度になるのか。

事務局 前回のアンケートは3,000通送付して、1,127通の回答があった。割合では37.6%となる。今回も同程度、またはそれ以上を目指してやっていきたい。アンケート調査を実施している時点で、広報に調査を実施している案内を載せるとか、対象者宛に回答が済んだかどうかといった案内を送ることを考えている。

会 長 回収率はなかなか難しいと思うが、できるだけ上げるか、この後の説明にあるのかもしれないが、WEBでの回答もできるようなので、もっと多くの方に呼びかけても良いのではないかと思い、コメントさせていただく。

事務局 ちょうど一か月前に庁内会議でもご意見が出た。3,000人に絞らず、どなたでも回答できる調査をしてはという話が出た。その後、検討して準備を進めているところ。

会 長 スケジュール等も含めて、他に何かないか。では、この後も今の話に関係するものなので、そちらも説明いただいた後、また伺いたいと思う。(2)魚津市総合計画策定のための市民意識調査について、事務局より説明をお願いします。

事務局 (説明)

魚津市総合計画策定のための市民意識調査について

会 長 ただいま説明をいただいたが、市民意識調査について何かご意見等あるか。

A委員 35 の施策の評価について、市民の方にはそれぞれの項目について答えられない方もいらっしゃるのではないかと思います。「わからない」といったような、率直なところを把握されても良いのではと思うが、いかがか。

事務局 そのあたりも踏まえて、「どちらとも言えない」という選択肢も設けている。紙ベースでも WEB でも、無回答でも回答していただけるような形にしている。

A委員 わからない場合にはマルをつけなくてもよいというような言葉があればと思う。

会 長 「評価できない」は「良いとは評価できない」の意味ではないか。「評価が不可能」の意味ではないと思うので、少し言葉がわかりにくいと思う。

B委員 この調査票はこれが完成形か。

事務局 8～9割は完成形だが、皆様のご意見をいただいて修正する。

B委員 ヒアリングについても尋ねられていたがそれとは内容が異なるのか。

事務局 ヒアリングはまた別のもの。

B委員 アンケートは実際どれぐらいの数字が返ってくれば統計として有用なものか。

事務局 統計的には人口が1万人を超えると、1,000 を回収できれば、集計として統計的には大丈夫と言われている。それを見越して前回は 3,000 通を配布される予定かと思う。今回もその規模をキープしたいと考えている。

C委員 5段階評価にされているが、中間を用意すると皆さん中間を選ぶ傾向になるのではと思う。市として市民の意見を聞きたいということであれば、4段階にして、良い方か悪い方のどちらかにマルをつけていただいたほうが、調査という意味ではより良いのではないかと個人的には思う。

会 長 確かに、私も大体真ん中につけてしまう。他に何かあるか。

D委員 最初の方の問いに、性別、年齢、地区がある。私もアンコシヤスバイアスなど勉強中のところではある。昔からこういうアンケートでは男性、女性の項目がある。今後、いずれはこうした男女の設問がなく、年代、地区だけを問うアンケート調査票に変わっていくのではと思う。今回の調査で男性・女性についてマルができない方はおそらく3つ目の「回答しない」に回答するかと思うが、その時点で、若干差別的なように受け取られるかとも感じる。

事務局 すぐにでも検討できるところなので、考えたい。

会 長 他にあるか。

質問だが、前回と同じ設問はこのうちのどの設問になるか。これまでとの変化をみたいところはどこで、新しく変えたところはどこになるか。どこで分かれているか。

事務局 問1から問7までは毎回同じ項目としている。選択肢も同じ内容の選択肢を設けてアンケートをとっている項目となる。

会 長 そうなると問7まではあまり変えたくないものになるか。細かい文言の変更は大きな影響はないのかと思うが。4、5ページをみた瞬間に、少し、面倒と感じてしまったところである。特に問6は、「基本計画（施策）」を見れば大体何のことを聞かれているかわかるようにも思う。右側の「概要・目指す姿」はプラスアルファとして、どんな話なのかと思う方が読んでくれるような形式にできないだろうか。

事務局 「基本計画（施策）」だけでわかっていただけるのはありがたいお話だが、中には具体的にどういうことが為されているかに対しての評価かわからない方もいらっしゃるため、詳しく説明をつけさせていただいた。「概要・目指す姿」の記載を読み飛ばして、大きなところで回答される方もいらっしゃるのが実際の姿かとは思う。

会 長 その意味で、「概要・目指す姿」と、回答の位置を逆にしてはいかがかと思う。

事務局 良いアイデアだと思う。

会 長 読まないと選択肢にいけないと感じる人もいるのではと思う。

他に何かあるか。先程の全体の説明も含めて、何かご意見あるか。よろしいだろうか。

それでは、本日の資料についてのご意見は出尽くしたようなので、事務局においては十分に検討され、次回に反映されるようお願いしたい。

事務局 それでは、これをもって本日の議事を終了とさせていただくが、引き続き、事務局より事務連絡をさせていただく。

（事務連絡）

これで本日の審議会を終了させていただく。委員の皆様におかれては、今後も引き続きよろしくをお願いしたい。

14：35 閉会